



市・有形文化財 美術工芸品（絵画）

うおづまちそうえず
魚津町惣絵図 魚津市本江（魚津市）

天明5（1785）年に書きかえたと記載のあるこの彩色絵図は、縦139cm、横205cmの大きなもので、江戸時代中期の魚津町の状況を克明に描いており、当時の魚津の政治・産業・文化について詳細に記した「魚津町宿鑑帳」と対をなすものと推定される。

絵図によると、南北を角川、神明川（鴨川）が流れ、西方が海という自然の要塞に囲まれた地の中央に魚津城跡がある。城跡の周囲は、二重の堀に囲まれ、そのまわりに役屋敷と役人の住居が建ち並び、そのまためぐりを寺院がいらか薨を並べるといった典型的な城下町の形態がうかがえる。

この絵図で目を惹くのは、海岸線一带に張られた防護柵、大町通りの御旅屋、城跡入口正面にあったこの絵図で唯一の町人名である当時の豪商大梅寺屋与一朗の蔵屋敷などある。「魚津大火」をまぬがれた地域も多く、江戸時代の魚津を偲ばせる絶好の資料である。